

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	近藤 彰信	学校名	北九州市立門司中学校
実施学年	中学1年生	教科	社会科(地理的分野)
単元名	第4節 北アメリカ州 「国歌から歴史、現在の各国の社会の姿を考える」		

《学びを深めたいポイント》

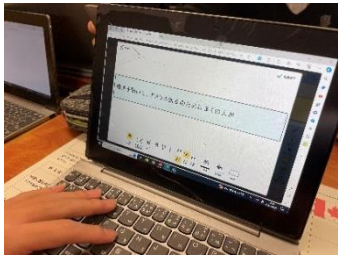
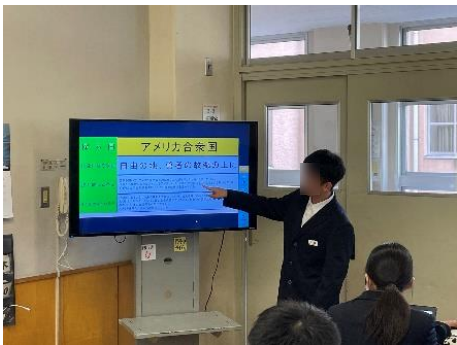
本授業では、アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州の学習を終えた子ども達に、世界の国々の情勢(当該国の歴史や文化、現在の政治体制など)の捉え方の一手法として、「国歌から国家の姿」を探ることができるといふ点に気づかせようと試みた。国歌とは、『国家的祭典や国際的行事で、国民および国家を代表するものとして歌われる歌』(広辞苑 第七番)、『国家の理想や精神がうたいこんである、国を代表する歌』(旺文社国語辞典)など記載されており、その国の目指すべきものが込められている。事実、世界各国の国歌には歴史や文化をはじめ、風土や環境について歌われているものが数多く存在する。また、国歌に使用されている言語に注目することで、植民地支配など様々な歴史的背景を捉えることもできる。したがって、本授業はこれまでの学習内容(アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州)の振り返りになるとともに、後の歴史的な分野、公民的分野につながる有意義なものであると考える。

また、探る国を G7(主要 7 か国)の国々に指定した。この理由としては、世界をリードする国々の共通点に気づかせることを通して、今後の世界の行方(国の枠組みを越えた団結が進むのかなど)を想像させることができるかと推察したためである。昨今、「自国第一主義」を唱える政治政党が一定の世論を獲得し、台頭しているなかで、今こそ我が国をはじめ世界の国々は、その国の建国の精神に立ち返る必要があると考える。また、我が国にとって世界との結びつきは経済面、防衛面に関してどのように強めていくべきかという点にも波及する課題でもあるため、社会科の全分野につなげられるものと考えている。よって、子ども達に多面的・多角的な世界の見方を捉えさせ、深めることに注力した。

《SKYMENU 活用のポイント》

知識構成型ジグソー法を仕組むため、主人数のグループをつくり、グループ内で探る国を分担し、まず個人で国歌を聴き、思考する時間を設けた。その後、国別に集まり発表ノートのグループワーク機能を活用して見方・考え方を広げる時間を確保し、意見の共有を図った。これにより、苦手な子ども達も教え合いというサポートを受けられ話し合い活動に参加することが容易となる。加えて、発表ノートのグループワーク機能を活用したことで、同じ国を探った仲間のスライド等を見ることができ、次のステップに進むための知識や情報を正確に把握することができる。それらを得たうえで、当初のグループに戻りジグソー活動を行い、クロストークで共通点や相違点に気づかせる。グループの活動状況によっては、一歩踏み込んだ「現在の国の様子から今後の国の行方」に想像を働かせるように仕組む。提出箱の設定から仲間の提出課題を閲覧できる状態にしておくことで、さらに個人の提出課題の質などをあげようとする主体性の部分を刺激したい。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	1. 国歌についての問いから国歌の意義に気づかせめあてにつなげる。 ・国歌ってどんな時に聴く？歌う？ ・国歌ってなんであるの？ ・国歌にこめられた想いってなに？		
展開	めあて 国歌を聴いて、その国の歴史や現在の国家の姿を探ろう！ 2. 小グループ内で探る国を分担し、各国の国歌を聴き、読み取れる内容を発表ノートにまとめる。 3. 各グループの探る国が同じ同士でジグソー活動を行い、国歌から見える各国の歴史や文化、現在の国の様子を捉える。 ※この際、蓋然性を高めるために、大使館や領事館などの官公庁の公式ホームページ等を閲覧させる。 4. 当初のグループに戻り、ジグソー活動で得た内容を共有し、相違点等を見つけださせる。 ※この際、国歌に歌われている内容が、当該国の姿、歴史や文化、風土を表している点に着目させる。	配布された発表ノートに自身が聴き取ったことを記入する。   前段階で記入した発表ノートを基に、情報共有を行い、新たな視点に気づく。	発表ノートの背景化を活用して、記入する項目を統一設定しておくことで、後のグループ活動の視点がブレなくなる。  情報共有後に行う、発表ノートのグループワークでは、誰が記入したか判別できるように文字の色を変えるなどの対応をとらせる。 
まとめ	5. 2つのグループ活動を通して、見えてきた「国歌から国家の姿を探った」結果を個人でまとめる。 ※この際、一国家だけの努力では、その理想とする姿を実現できない現実もあることを匂わせる声かけを行うなど“地域統合”の光と影にも踏み込みたい。	 自身が創りあげた発表ノートを活用して、まとめや振り返りを行うとよい。	

《実践を振り返って》

私たちが、いつの間にか何気なく出会い、触れ、式典などで歌う“国歌”を授業に柱に据えてみたところ、子ども達からは「国歌ってなんであるん?」「国歌っていつできたん?」「国歌のない国ってあるの?」など導入段階では素朴な意見が次々と挙がった。子ども達からしてみれば、年に数回ほどしか馴染みのない国歌にこれまで着目する機会にはほぼなかったのだと考える。個人的には、今回の授業の柱に子ども達が「知ってはいるけれど、知らない」国歌を選択したことには意義があったと推察する。

また、国歌をただ単に式典等で歌うだけのものではなく、その国を深く理解するための一手法であることに気づくことができた点も有意義だったと考える。加えて、発表ノート等のツールを活用したことで、仲間との情報共有+新たな視点の探求もうまく進められた。従来の授業であれば、情報共有で終わることが珍しくなかったものが、一步踏み込めたものになったと感じている。

ただし、知識構成型ジグソー法は課題とも言える苦手な子への教師側の配慮が不足していたため、得意な子達による教え活動になっていたグループも見られた。今回のテーマを扱うには2コマの授業時間を確保したほうが良かったと反省している。個→集団→個という学びの仕組みをベースとした授業では、はじめの個が大変重要になることから時間を多く割いたほうが、もっと実りある話し合い活動になったと考える。

一方で、教師側も本授業の新たな着想を得ることができた。SKY MENU Teacher's Community Site 内の発表ノート素材にあったシンキングツールなどを見て、クラゲチャートなどのツールを活用した授業構成にするアイデアなどである。デジタル化により、子ども達の学びの方法は本当に多種多様になってきており、使いこなせるようになれば、更なる能力の伸長を図れるものであると感じている。今後も試行錯誤しながら本校の子ども達に合った授業スタイルや現代社会とのつながりを意識できる授業づくりに努めていきたいと考えている。

※本実践は、先にも記述した通り地理的分野(世界の諸地域)の中間まとめとして実施したものであり、歴史的分野を学習していない子ども達を対象に行った。そのため、植民地支配のなごりや歴史的背景については、未熟な部分がある。また、授業者の想いから G7+BRICS という国々を世界の諸地域の大単元では柱にしており、比較的これらの国の現在の情勢や文化などには一通り触れている。